

## 第 41 回クラシックを楽しむ会

2017 年 3 月 12 日 (日) 18:00～ (2 時間 50 分、休憩除く)

タイトル：歌劇「蝶々夫人」ミラノ初演版(プッチーニ)

会場等：ミラノ・スカラ座  
2016-2017 開幕公演 (2016 年 12 月 7 日)  
日伊国交 150 周年を締めくくる記念公演

楽団等：ミラノ・スカラ座管弦楽団、同合唱団

指揮：リッカルド・シャイー

演出：アルヴィス・ヘルマニス

出演：マリア・ホセ・シーリ (蝶々さん)  
アンナリーザ・ストロッパ (スズキ)  
ブライアン・ハイメル (ピンカートン)  
カルロス・アルバレス (シャープレス)  
他



第 1 幕、ピンカートンに悲しい身の上を語る蝶々さん

### あらすじ

明治の長崎、没落した士族の娘蝶々さんが米国海軍士官のピンカートンと結婚する。蝶々夫人は帰国した夫の帰りを三年もの間待っていた。ところがピンカートンは米国人の妻を連れて息子を引き取りに来る。蝶々夫人は息子を引き渡し愛と名誉のため自害する。

### ミラノ初演版について

1904 年にミラノ・スカラ座で初演された「蝶々夫人」は「歴史的な大失敗」(初日で公演打ち切り)に終わり、3 か月後の改定版で大成功、その後も改定を続け、現在 1907 年の第 5 版パリ版が標準。今回上演の初演版も再演が試みられており、スカラ座では 112 年ぶりの再演。

初演版の失敗の原因として、過度な異国情緒の表現とピンカートンの日本を蔑視するような表現が、核となるテーマ「愛と死」を霞ませてしまったとも。本公演でシャイーは「日米の文化的差異が強調され結末はより悲劇性が高い」と語っている。

### 日伊国交 150 周年について

2016 年は日本とイタリアが 1866 年に修好通商条約を締結してから 150 年目にあたる。これを記念して、両国で政治、経済、文化、科学技術など多岐にわたる分野で交流行事が行われたが、本公演はその締めくくりの行事である。

スカラ座はミラノのドゥオモからガレリアを通り抜けたスカラ広場に面しているが、向かいのマリーノ宮では北斎や歌麿展が開催され、ドゥオモ横の老舗リナシェンテ・デパートのショーウィンドーは全面「ジャポニズム」で飾られていた。



本開幕公演、スカラ座近くのデパートはジャポニズム一色

### 第 42 回クラシックを楽しむ会(予告)

タイトル：歌劇「後宮からの誘拐」(モーツァルト)

4 月 23 日(日) 17 時 30 分開場、18 時上映開始

1980 年最晩年のベームがバイエルン国立歌劇場管弦楽団を指揮。コンスタンツェ役のグルベローヴァの超絶技巧、身長 210 cm! の巨人タルヴェラのコミカルなオスミン役、若きアライサの美声によるベルモンテ役に注目を。

5 月以降、「マノン・レスコー」、「トゥーランドット」などを予定。

# あらすじ

## 【時と場所】

1895年（明治28年）頃の長崎、港の見える東山手の丘のふもと

## 【主要人物】

蝶々夫人：ピンカートンと結婚した元士族の娘（ソプラノ）

スズキ：蝶々夫人の召使（メゾ・ソプラノ）

ゴロー：結婚仲介人（テノール）

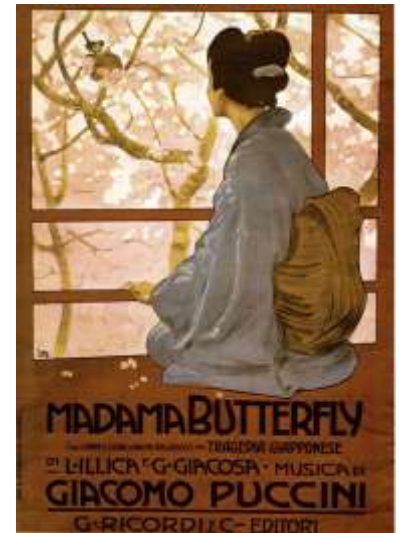
ピンカートン：アメリカ海軍士官（テノール）

シャープレス：長崎駐在アメリカ領事（バリトン）

ケート：ピンカートンの妻（メゾ・ソプラノ）

ボンゾ：蝶々夫人の叔父の僧侶（バス）

ヤマドリ公：地元の有力者、蝶々夫人に求婚（バス）



1904年初演のポスター

## 【第1幕】長崎の街と港を見下ろせる丘の上の家、縁側と庭が見える

武士である父が勅命により切腹したため、15歳の蝶々さんは芸者となっていた。結婚仲介人ゴローの仲立ちでアメリカ海軍士官のピンカートンと結婚することになり、領事シャープレスが立会って結婚式が行われる。僧侶の叔父ボンゾが、蝶々さんが結婚のためにキリスト教に改宗したことを知って怒鳴り込み、親族一同蝶々さんに絶縁を言い渡して去っていく。後に残された蝶々さんは涙を流すがピンカートンが優しく慰め、愛の二重唱「夕闇が迫り」を歌う。

## 【第2幕】(または第2幕第1場) 蝶々夫人の家、第1幕の三年後

ピンカートンが日本を去って三年。蝶々さんは心配する女中スズキを尻目に「ある晴れた日に」と歌い、ピンカートンの帰国を信じて疑わない。久しぶりに領事シャープレスが現れ、ピンカートンから来たという手紙を差し出す。そこに大金持ちのヤマドリが現れ蝶々さんに求婚するが、蝶々さんは受け付けない。ヤマドリが去った後、シャープレスは手紙を途中まで読んで「ヤマドリの求婚を受けてはどうか」と勧めるが、ショックを受けた蝶々さんは「ではこの子は」とピンカートンとの間にできた子供をシャープレスに見せる。シャープレスはその場を去り、入れ替わりにスズキがゴローを追い立てて飛び込んできて、子供にまつわる中傷を近所に言触らしていると怒る。蝶々さんは抜刀してゴローを追い出し、嘆く。そこに大砲の音が鳴り響き、ピンカートンが乗船する船の入港を告げる。蝶々さんは喜びいさんでスズキと共に部屋中を花で飾り、化粧をして障子に三つののぞき穴を開け、ピンカートンの帰りを待つ。夜になり「ハミング・コーラス」の中、蝶々さんの一人寝ずに外を見つめるシルエット。

## 【第3幕】(または第2幕第2場) 蝶々夫人の家、夜が明ける

夜が明けるがピンカートンは現れず、スズキは待ち続ける蝶々さんをいたわって子供と共に別室で休むようすすめる。悲しい子守唄を歌いながら退がると、シャープレスとピンカートンが、ピンカートンの妻であるケートを伴って現れる。スズキは絶望し、ピンカートンは「さようなら花の巣よ」と歌い、自らの罪を悔いて去る。スズキは「子供を預からせて欲しい」というケートの申し出を受け、蝶々さんを説得する約束をする。そこへ蝶々さんがピンカートンの帰宅と勘違いして現れケートを見てしまう。全てを悟り絶望する蝶々さん。子供との別れも理解し、「30分後にピンカートンと共に来て下さい」と言い、シャープレスとケートは去る。蝶々さんはスズキをさがらせ「名誉を守れないなら、名誉のために死ね」と彫られた父の形見の短刀を抜いて喉元にあてるが、そこへスズキに伴われて子供が飛び込んでくる。蝶々さんは「さようなら坊や」を歌って子供に別れを告げ、一人屏風の蔭にまわり自ら命を絶つ。

## 補足.

上記あらすじは現在上演されている改訂版で通常全3幕。本公演の初演版は全2幕である。

初演版との違い。例えば第1幕でピンカートンが蝶々さんの使用人の名前「浮雲」、「日出夫」などを「顔1」、「顔2」などと呼ぶ部分などをカット。第2幕を「ハミングコーラス」の部分で分割して全3幕にし、第3幕の最後にピンカートンの後悔のアリア「さようなら花の巣よ」を追加、同じ第3幕最後の蝶々さんのアリア「さようなら坊や」を修正するなど大幅に改定、改作を重ねた。

## 主な出演者

**マリア・ホセ・シーリ**（蝶々夫人）は南米ウルグアイ出身のソプラノ歌手。ピアノを学び、ピアノ伴奏者になったが、サクスを学ぶため耳トレーニング教室に入ろうとして誤って声楽教室に入ったことから歌手を目指すことになった。ヨーロッパに渡って声楽コンクールを受けたとき、審査員の**イレアナ・コトルバス**（往年の名ソプラノ歌手）の目に留まり、自宅に招かれて現在も泊まり込みで個人レッスンを受けている。いま世界の一流歌劇場で大活躍中である。



マリア・ホセ・シーリ

**アンナリーザ・ストロッパ**（スズキ）は、イタリア期待の若手メゾ・ソプラノ歌手。

**ブライアン・ハイメル**（ピンカートン）はアメリカ、ニューオリンズ生まれのテノール歌手。

**カルロス・アルバレス**（シャープレス）はスペイン、マラガ生まれのバリトン歌手。

**リッカルド・シャイー**（指揮）はイタリア、ミラノ生まれ。現在ミラノ・スカラ座音楽総監督。

**アルヴィス・ヘルマニス**（演出と舞台美術）ラトビア、リガ生まれ。ザルツブルク音楽祭 2014 の歌劇「トロヴァトーレ」（2015年6月鑑賞会で上映）も彼が演出している。

## 日本の旋律について

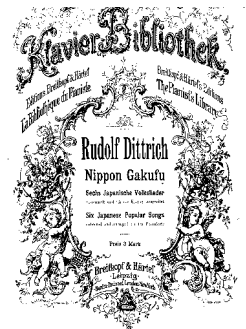
歌劇「蝶々夫人」で用いられた日本の旋律は、メロディーをそのまま挿入したのではなく素材を研究しつくしてプッチーニ独自の芸術作品に仕上げている。

- 越後獅子**：長唄の名曲。越後から江戸に出稼した角兵衛獅子。若者が故郷の若妻を案じて唄う部分。  
第1幕の初め、蝶々さんがピンカートンに芸者になった身の上を語る場面、悲劇的な主題。
- 君が代**：歌詞は薩摩琵琶の「蓬莱山」から採用、曲は明治13年林廣守、エッケルトが作曲。  
第1幕前半の親戚一同が現れる場面と第2幕第1場蝶々さんがゴローに反論する場面
- さくらさくら**：江戸古謡。明治13年発行の「箏曲集」では「桜」。  
第1幕前半の蝶々さんがピンカートンに父の遺品など小物類を見せて語り合う場面
- お江戸日本橋**：明治4年頃、江戸で流行った唄、「おまえ待ち待ち・・・コチャカマヤセヌ」。  
第1幕前半の挙式直後「私は蝶々夫人ではなくピンカートン夫人よ」と友人たちに訂正する場面と第2幕第1場シャープレスとゴローが登場する場面
- 高い山から谷底見れば**：明治2年頃流行った唄。”高い山から谷底見れば・・・ギッチョンチョン”。  
第2幕第1場の冒頭、スズキが帰らぬピンカートンを待ち続ける蝶々さんのために祈る場面
- 宮さん宮さん**：明治元年頃官軍で流行った軍歌、「トコトンヤレ節」とも。  
第2幕第1場中盤で登場するヤマドリ公のテーマ
- かつぼれ**：文化文政年間に大阪住吉大社の境内で踊られたもの。後半の豊年節の子守歌が原曲。  
第2幕第1場の後半部から蝶々さんの息子ドロレーのテーマ
- 推量節**：明治20年頃流行った唄。”止めてコリヤサ止まらぬ恋の道・・・アラ推量スイリョウ”  
蝶々さんの死のテーマ、歌劇の最後にユニゾン（全管弦楽で同じ旋律を演奏）で強奏される。

プッチーニは**デイトリッヒ**がピアノ曲に編曲した”Nippon Gakufu”（日本民謡集と日本歌集）から「端唄」、「さくら」、「お江戸日本橋」、「地搦歌（じつきうた）」の4曲を取り入れている。この楽譜には歌詞がローマ字と独語および英語で記載されている。

ウィーン楽友協会ホールのオルガンを設計した**ルドルフ・デイトリッヒ**(1869-1919)はブルックナーなどに学んだウィーンの音楽家。明治政府に招聘され東京音楽学校で教鞭をとった。**幸田延**（後述）、幸田幸（後の**安藤幸**、女性初の文化功労者）姉妹も彼の教え子。上記楽譜はウィーンに帰国後まもなく出版されたが、その当時妹の幸田幸はウィーンに留学し彼の自宅を訪問している。なお、彼が日本を去る前に三味線演奏家の**森菊**が歌詞の翻訳や移調を手伝っている。余談だがペギー葉山の夫、俳優の根上淳は彼と森菊の孫。

**君が代**の歌詞は1869年、薩摩の大山弥助（後の**大山巖**）が薩摩琵琶の「蓬莱山」から採用した。曲は1880年雅楽奏者の林廣守らが作曲。



“Nippon Gakufu”



# 作品誕生の背景など

## 歌劇「蝶々夫人」作曲の経緯

1900年ローマで初演した歌劇「トスカ」。ミラノに続き、同年ロイヤル・オペラ・ハウスでの英国初演に招待されたプッチーニは近くのデューク・オブ・ヨーク・シアターで上演中のベラスコの演劇「蝶々夫人」を観劇した。英語のセリフは理解できなかったが涙を流すほど感激し、終演後舞台裏にベラスコを訪ねオペラ化を申し入れた。

ミラノに帰ると「トスカ」と同じ台本作者**イツリカ**と**ジャコーザ**に台本を依頼し、自ら原作の**ロング**の**短編小説「蝶々夫人」**、ロングが着想を得たと言われる**ロティ**の**小説「お菊さん」**をはじめ、「ジャポニズム」に関する資料を精力的に蒐集した。日本の文化、音楽について駐イタリア公使夫人の**大山久子**が大きな役割を果たした。また、1902年4月ミラノ巡業中の**川上貞奴**の舞台を観劇。「袈裟」で演奏する箏曲と「芸者と武士」の芸者の振る舞いを蝶々さんに反映した。



1903年2月、自動車事故で骨折、8か月も入院

## ベラスコの演劇「蝶々夫人」について

デーヴィッド・ベラスコ(1853-1931)はアメリカの劇作家、舞台監督・演出家。プッチーニは英人女優が演じた蝶々さんの悲劇の物語に感動しただけでなく、ベラスコの劇的な演出と舞台装置、例えば夫の帰りを待つ蝶々さんが14分もの間静かに舞台の上に座っている「徹夜の間」、普及が始まったばかりの白熱電灯の照明を駆使して夕暮れから夜明けまでの光の微妙な変化を表現した照明技術にも感動した。この名場面は歌劇の第2幕の終わり(有名な「**ハミングコーラス**」(約3分)が歌われる場面)に取り入れられた。



プッチーニは蝶々さんの演技に感動

## 歌劇第1幕はプッチーニの創作

デーヴィッド・ベラスコの戯曲「蝶々夫人」は全1幕で、歌劇初演版の第2幕に相当する。ロング原作の「蝶々夫人」は蝶々さんの結婚については簡単に触れていただけだったため、ロングに着想を与えたロティの小説「お菊さん」の本文と挿絵を参考にして結婚式の場面を創作した。



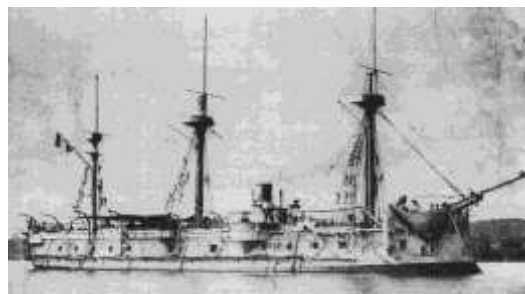
文芸誌の小説「蝶々夫人」の挿絵

## 原作ロングの短編小説「蝶々夫人」について

ジョン・ルーサー・ロング(1861-1927)はアメリカの弁護士・小説家。姉のサラ・ジュニー・コレルが夫の宣教師(鎮西学館第5代校長)アーヴィン・コレルと共に来日し、長崎の外国人居留地だった東山手に居を構えた。ロングは姉から聞いた話を短編小説「蝶々夫人」にし1898年文芸誌ザ・センチュリー・マガジンに発表した。この小説の場所は同じ長崎の東山手。

## ロティの小説「お菊さん」について

ピエール・ロティ(1850-1923 本名はジュリアン・ヴィオー)はフランスの小説家でフランス海軍軍艦トリオンファン号の将校。1885年に乗艦修理のため長崎を訪れ5週間滞在した。この時の長崎の風物を小説「お菊さん」にして1887年に出版\*、フランス国内だけでなく大きな反響を呼び5年後にアカデミー・フランセーズ会員に選出されることになった。



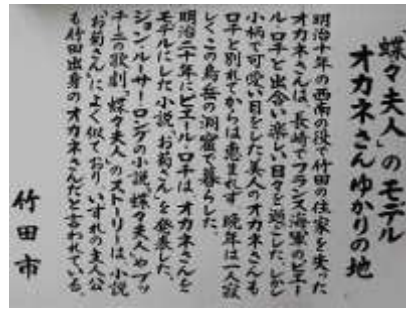
長崎に入港したロティの乗艦とアンリ・ルソーが描いたロティの肖像画



\*挿絵は、ロティのスケッチと、日本人最初期の職業写真家、長崎の**上野彦馬**の写真をもとに、フランス人の画家2人が描いた。

ロティは「ジャポニズム」に興味があったが、アジア人、日本人は嫌いだった。宗主国人が植民地人を見る目で長崎の退屈な日々を日記風に記したもので、お菊さんは人格を持った「主人公」ではなく花鳥風月の添え物として扱われていた。

ロティはその年の晩秋まで日本に滞在し鹿鳴館にも招待された経験を短編集「秋の日本」に著した。この中の「江戸の舞踏会」は芥川龍之介の短編「舞踏会」の原作である。小説「お菊さん」と小説中の挿絵に触発されてラフカディオ・ハーンは日本に来ることになった一方、ファン・ゴッホは「(明治政府の欧化政策で伝統を捨てた) 東京はもはや江戸ではない」と失望したが、この小説を読んで名画「ラ・ムスメ」を描いた。ロシアのニコライ皇太子 22 歳は 1891 年、長崎到着前日に小説「お菊さん」を読み始め、長崎に上陸して大変満足した (この後大津事件に遭遇)。



「お菊さん」のモデルは実在したオカネさん、右端がロティ

## プッチーニに影響を与えた大山久子と川上貞奴

大山久子(1869-1955)はイタリア駐在日本公使大山綱介夫人である。イタリアに渡ったのは 1899 年で当時 30 歳前後。プッチーニが「蝶々夫人」作曲当時、久子は度々プッチーニ宅を訪問して日本の事情や民謡に関して助言した。幸田延 (幸田露伴の妹、当時東京音楽学校教授で、瀧廉太郎、山田耕筰らを育てた) に依頼して出版されたばかりの西洋楽譜日本俗曲集、中学唱歌、幼稚園唱歌集、五線譜による箏曲集などの楽譜を提供し、実際に歌い、琴を演奏して聞かせた。また、当時発売されたばかりの日本の伝統音楽のレコードも提供した。さらに台本のチェックも手伝った。なお久子の旧姓は野村ヒサ、父の野村素介は元長州藩士、貴族院議員で 1900 年には男爵。夫の大山綱介は名前から薩摩出身と思われる。久子の長女の夫澤田節蔵は国際連盟日本代表代理、東京外国語大学初代学長など戦中戦後多方面で活躍。久子本人は 1955 年横浜戸塚にあった聖母の園養老院の火災で焼死、その死は奇しくも「蝶々夫人」初演された日と同じ 2 月 17 日で海外にも報じられた。



久子の焼死を報じる AP 電

川上貞奴(1871-1946)は芸者、女優。日本橋の両替商に生まれたが生家の没落で 7 歳のとき芸妓置屋の養女になった。才色兼備で伊藤博文ら明治の元勳から最厚にされ当時日本一の芸妓と言われた。1899 年に「オッペケペー節」を流行らせた川上音二郎一座のアメリカ興行に同行して日本初の女優となった。エキゾチックな日本舞踊と貞奴の美貌が評判を呼び、瞬く間に欧米で空前の人気を得てパリ社交界にデビュー、フランス大統領の園遊会にも招待され「マダム・サダヤッコ」の通称で「キモノ」とともに一躍有名になった。1902 年帰国後に音二郎と帝国女優養成所を創立するが、夫の死後、演劇界やマスコミから攻撃されて引退。引退後は初恋の福澤桃介 (福澤諭吉の娘婿で「電力王」と呼ばれた) の事業を助けて二人の関係\*が話題を呼んだ。



ピカソがスケッチした貞奴、1901 年のパリ公演

\* 1985 年 NHK 大河ドラマ「春の波濤」。2 人が住んだ名古屋市の貞奴邸は復元・移築され「文化のみち二葉館」として再生。

## プッチーニが聞いた日本音楽のレコードとは

プッチーニが聴いた日本の伝統音楽のレコードは英国製か。円盤レコードが世界で初めて製品化されたのは 1889 年。1903 年 2 月に英国グラモフォン社の録音技師\*が初めて日本に出張録音 (1 か月半の間に 273 演目!) して原盤を持ち帰り、ドイツの工場プレスしてその年 (日本は翌年) に発売した。なお日本では 11 月に米国製レコードが先に発売されている。

\*米国人技師ガイスパークは、1900 年のパリ万博で川上音二郎一座の録音を手掛け、1902 年にはエンリコ・カルーソーの録音を、その後フェオドル・シャリアピン、フリッツ・クライスラーなどの当時の世界的名歌手・名演奏家の録音も手掛けた。